



この人

「SOの活動が どこのマチでも 当たり前になれば」

スペシャルオリンピックス日本・北海道

新会長 渡部 わたなべ 章 あきら さん(54)



知的発達障害のある人に、様々なスポーツプログラム等を提供するスペシャルオリンピックス日本(SO N)・北海道が紋別に誕生して今年で10年。設立に走り回った渡部章さんが、2月に新たな会長に就任しました。渡部さんは「知的障害者にとっての大会はSOしかない。同じような活動がどこのマチでも当たり前になれば」と期待を込めて話します。

だ全国でも10カ所ほど。渡部さんは仲間とともに、活動を早くから行っていた熊本県から講師を招き講演会を開くなど奔走。講演会では市民の反応も良く、渡部さん自身も「知的障害者の人と初めて触れ合い、何も自分たちと変わらないことに気づいた。紋別には養護学校や高等養護学校もあって、うまくいけばいい活動ができると感じた」と語ります。

渡部さんとSOとの関わりは、当時、道都大学に勤めていた一人の講師から普及に誘われたのがきっかけ。もともと、40歳になってボランティアに携わり始めた渡部さんはネパールへの支援を通じて現地に赴いたとき、日本の支援で贈られたサッカーボールで遊ぶ子どもがいる一方、支援が行き届かず隣で新聞紙を丸めたボールでサッカーをする子どもを目の当たりにし「逆に貧富の差が広がっている。支援の難しさを感じた」といい、本当の支援を考える必要があったと振り返ります。今でこそ北海道府県で広がっているSOも、その頃はま

SON・北海道の紋別地区会でのスポーツプログラムは、ボウリングや水泳のほか、夏は陸上、冬はスキートの4種目。渡部さんも自らアスリートと一緒に走りながら、「一番大事なのはプログラム。いろんな人を通じて返ってくるんです」と魅力を語ります。ただ、コーチ不足が悩みで、渡部さんは「SOの魅力は、アスリートもコーチも一緒に成長していく過程。一緒にスポーツを楽しむ感覚で是非参加してみたい。スポーツ以外の関わり方もいっぱいある」と新たな仲間を呼びかけています。